

平成 30 年度 第 1 回三条市廃棄物減量等推進審議会会議録（概要）

- 1 開催日時 平成 30 年 12 月 20 日（木）午後 2 時 30 分～午後 3 時 15 分
- 2 場 所 三条市役所三条庁舎 3 階 第一会議室
- 3 出席者 委員 6 人：中村会長、桑原委員、桐生委員、山口委員、笠原委員、石黒委員
※ 欠席委員 4 人（木宮委員、川崎委員、渡邊委員、真野委員）
若山副市長
事務局：渡辺理事兼市民部長、永井環境課長、五十嵐環境課課長補佐、布施ごみ減量係長、佐藤主事、内山一般任用主事
- 4 傍聴者 三条新聞社
- 5 会議概要

開会后、市民部長から挨拶あり。

続いて、出席委員及び事務局から自己紹介あり。

続いて、委員改選により不在となっている会長及び副会長の選出を行い、会長に中村委員が、副会長に木宮委員が選出され、中村会長から挨拶あり。

続いて、若山副市長出席の下、「三条市指定ごみ袋等の料金見直しについて」諮問し、引き続き、諮問についての審議を行った。

主な質疑応答は次のとおり。

(1) 指定ごみ袋等の料金の見直し（案）について

笠原委員：改定時期は、消費税の税率が上がる日と同日か。

ごみ減量係長：同日の平成 31 年 10 月 1 日である。理由としては、増税に伴い指定袋の製造費及び取扱いに関する費用が増加することから、同日にお願いしたいと考えている。

笠原委員：その場合、市民には税金の負担感があるが、市の財政が増えることにより、サービスがより向上するという事でお願いするのか。また、値上げ分が市民にサービスとして還元されるという具体的な方針の議論はされているのか。

理事兼市民部長：値上げしたことにより、どのようにサービスが向上するかについて、具体的な考えがあるかといえば、現時点では特にない。

前回の提言にもあるが、ごみの処理に要する経費が増えている現状、受益者負担の原則などを踏まえた適正な料金設定が必要との考えの下、この度料金見直しについて諮問したところである。サービスを向上させたいという考えは根底にあるものの、まずは、現状のサービスを低下させずに維持していくことを基本としている。

笠原委員：受益者負担ということであるが、負担に応じて市民サービスが受けられるなら、市民から理解を得やすい。また、今後の見通しも立ちやすい。

中村会長：笠原委員から、指定袋の値上げについて、将来的には値上げ相当分の市民サービスを市から提案してほしい旨の御提言があったと受け止めてよろしいか。

笠原委員：受け止めてよい。

理事兼市民部長：重く受け止めさせていただきたい。

桑原委員：料金の値上げ前に市民の買いだめが想定されるが、不足になることはないのか。また、袋のサイズやデザイン等は変わらないのか。

ごみ減量係長：買いだめに対応できるように在庫を確保するなど準備を進める予定である。また、袋のサイズやデザインは、基本的には変える考えはない。

中村会長：産業廃棄物処理費が高騰している現状と比べると、事業系処理手数料の改定後の料金は、安いのではないか。この料金だと、市に事業系ごみの搬入が増えるのではないかと懸念している。

市の税収構造を考えた上で、市民負担はできるだけ抑えてほしいが、地元の事業系活動については、世間一般の料金を考慮した上で、メリットを出せる金額を考えた方がよい。

中村会長：次回の会議で答申内容を取りまとめ、市長に答申したいと思うので、よろしく願いしたい。

- (2) その他
特になし

以上